

# 平成 26 年度水産研究成果情報

課題名：有明海佐賀県海域におけるタイラギ垂下養殖技術の開発

## [背景・ねらい]

タイラギ(学名 *Atrina pectinata*)は、有明海佐賀県海域におけるヘルメット式潜水器漁業の主要漁獲対象種であるが、平成 12 年度以降原因不明の「立ち枯れへい死」や低塩分・貧酸素の影響による斃死の発生等により漁獲量が低迷し、タイラギ漁業者の経営が極めて厳しい状況となっている。

そこで、タイラギ漁家の経営安定を図るため、平成 25 年度から、有明海佐賀県海域におけるタイラギの適正な垂下式養殖技術の開発に向けた試験を実施しており、平成 25 年度は、貝柱歩留まり※が天然のタイラギよりも 1.5～4 倍大きくなることを確認した。

平成 26 年度は、前年度の課題であった夏季の斃死の軽減対策として、高水温期にタイラギの取り扱いを避けるための早期垂下(5 月垂下開始)を実施し、付着物軽減対策として、シリコンを塗布した垂下ネットを使用した。

※貝柱歩留まり…全体重量に占める貝柱重量の割合

## [成果]

有明海湾奥部で採捕したタイラギ稚貝を用い、太良町竹崎沖養殖筏において平成 26 年 5 月～27 年 2 月まで垂下養殖試験を実施したところ、2 月時点での貝柱歩留りが天然タイラギよりも最大で 4.9 倍大きくなることを確認し、今年度新たに取り組んだ、早期垂下による夏季の斃死軽減及びシリコン塗布ネット使用による付着物軽減効果についても一定の効果を確認することができた(下図 1～3)。

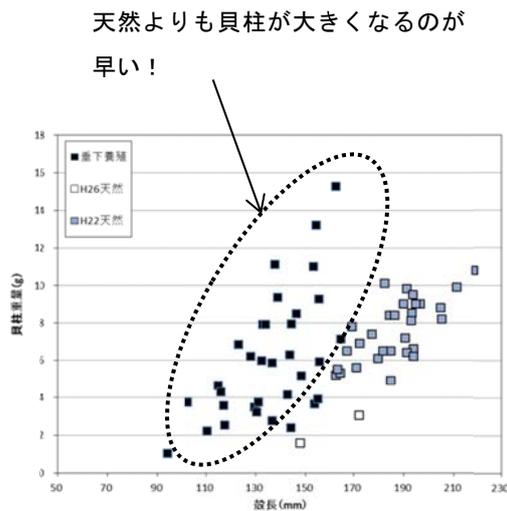


図 1 タイラギの殻長と貝柱重量との関係

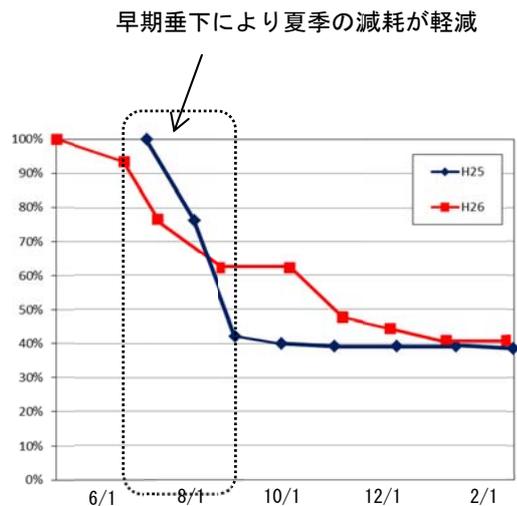
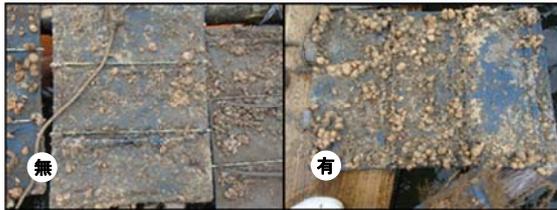


図 2 早期垂下による昨年度との生残率の比較



5～6 月、10～2 月はシリコン塗布ネットを使用することで、付着物の軽減効果が確認された。



7～9月はシリコン塗布ネットを使用しても、付着物の軽減効果は確認されなかった。

図3 シリコン塗布ネット使用による付着物の状況（上段：6月 下段：8月）

#### [成果の課題・問題点]

タイラギ垂下養殖による貝柱の肥育効果や夏季の斃死軽減対策、低水温期の付着物防止対策については一定の成果が得られているものの、今年度新たに確認された10月以降の斃死や高水温期の付着物量軽減の対策を講じる必要がある。また、漁業者の収入アップを図るための垂下方式（養殖数の増大等）についても検討していく必要がある。

#### [今後の対応]

- ・斃死軽減対策、付着物軽減対策の実施を検討する。
- ・タイラギ収容数をアップさせる垂下方式（改良型提灯カゴによる垂下）の開発に取り組む。

#### [その他]

研究期間：平成25年～

研究担当者：有明水産振興センター 資源研究担当 福元亨